

このたびは、ミキサーユニットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
組みご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、  
正しくお使いください。お読みになったあとは、この取扱説明書を必ず保存してください。なお、組み設置に際し、  
ラックシステムの取扱説明書及び設置・工事マニュアルも合わせてご覧ください。

- 本機はユニペックスラックシステム組込用のミキサーユニットです。
- 別売のラジオチューナーユニット(FU-110R)を組込むことができます。
- ラック組み方法は、EIAサイズラックの取扱説明書をご覧ください。
- 本機で消費する制御電源電流は18mAです(オプション RK-X1で使用時は48mA)。
- 本機の標準的な組合せに対応した別売の各種接続用コードがあります。

## 目次

使用上のご注意	1
安全上のご注意	2~3
各部の名称と説明(前面)	4
各部の名称と説明(後面)	5
本機の動作	6
各種の機能	6~7
オプションの取付や各種調整のしかた	
[平衡入力トランスLT-16Aの取付けかた]	7~8
[マイク入力の入力感度の変更のしかた]	9
[録音出力レベルの変更のしかた]	10
[ライン1入力をレコード入力に変更のしかた]	10
[各半固定音量調節のしかた]	11
[減衰回路の使用のしかた]	12
[オートフェーダの調整のしかた]	13
[エレクトロチャイムEC-44の取付けかた]	13
[FM/AMラジオチューナーユニットFU-110Rの組込方法]	14
[※ミキサー制御板RK-X1の取付けかた]	15
各コネクターのピン番号と機能	16
相互接続図	17
別売接続コードの説明	18
定格/外観寸法図	19
サポートのご案内	20
保証書	20

## 使用上のご注意

- 本機はユニペックスラックシステム組込用ですから、規定の接続をされない場合、動作しない部分があります。  
(※印で表示)
- 本機のラックへの取付け位置(高さ)は、電源コードにより制約があります。AC電源ユニットRIP-2A31、RIP-2A51と  
ミキサーユニットの間は、最大18Uあげられます。(ただし、配線方法により変動しますのでご注意ください。)
- 付属の機器受金具は必ず使用してください。

# 安全上のご注意

必ずお守りください

## 安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

### 絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



### 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグを  
コンセント  
から抜け

### 分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



### 異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



### 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。



### 電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったり、熱器具に近づけたりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。



### 表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



### この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない

火災の原因となります。



### 雷が鳴り出したら、接続コードや電源プラグには触れない

火災の原因となります。



### 壁から4cm以上の間隔をおいて設置する

内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。



ラックにマウントする際は説明に従って正しく固定してください。取付けに不備があると落下したりしてけがの原因となります。



**⚠ 注意** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない**

火災・感電の原因となることがあります。



**不安定な場所に置かない**

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



**工事は工事店に依頼する**

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



**電源を入れる前には音量を最小にする**

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



**濡れた手で、電源プラグを抜き差しはしない**

感電の原因となります。



**お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く**

感電の原因となることがあります。



**本製品を電源コンセントの近くに置いて使用する**

万一の事故防止のため、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにして使用してください。



**電源プラグは根元まで確実に差し込む**

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。



**電源プラグのほこり等は定期的にとる**

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります



**電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない**

コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



**この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない**

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。感電の原因となることがあります。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。



## 各部の名称と説明(前面)

### マイク3音量調節つまみ

### マイク2音量調節つまみ

### マイク1音量調節つまみ

割込放送時には使用できません。

### ラック取付穴

付属のねじでラックに取付けてください。

### マイク1入力ジャック

(約-72dBV600Ω不平衡)

後面にもマイク1入力ジャックがありますがこのジャックが優先します。

### オプションのチャイム部ふた

エレクトロチャイムEC-44を組込まれる場合はこのふたをはずし、EC-44のスイッチボタンを取付けます。

### ライン1音量調節つまみ

### ライン2音量調節つまみ

### ラジオユニット挿入口

別売のラジオチューナユニットが取付けられます。

### 出力計

出力計の指針は出力レベルを指示しています。0VUを示すときが適正出力です。瞬間的に0VU以上の赤目盛を指す以外は常に0VU以下で中央付近を示す程度に各音量調節つまみを調節してください。

### ※電源スイッチ

ラックシステムの電源起動ができます。押せば電源がはいらいます。再び押せば切れます。

### 電源表示灯

電源が入りますと緑に点灯します。

### 高音音質調節つまみ

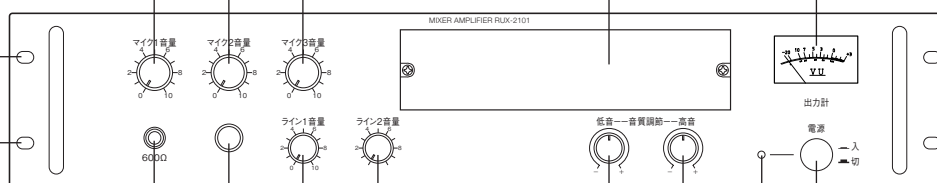
(チャイム、ライン4、5入力及び割込放送時のマイク1を除く)

右へまわせば高音が強調され、左へまわせば減衰します。中央クリックがフラット位置です。

### 低音音質調節つまみ

(チャイム、ライン4、5入力及び割込放送時のマイク1を除く)

右へまわせば低音が強調され、左へまわせば減衰します。中央クリックがフラット位置です。



## 各部の名称と説明(後面)

### AMループアンテナ接続端子

ループアンテナを接続してください。  
(P12のラジオチューナーユニットFU-110Rの組込方法を参照)

### JC1 制御用コネクタ

D型スピーカースイッチユニットRIS-D101の **JC5**、またはR型スピーカースイッチユニットRIS-R101AもしくはRIS-R101の **JC6**と接続します。(別売コードVU-2/3)

### JC2 制御用コネクタ

AC電源制御ユニットRIP-2A31またはRIP-2A51の **JC5**と接続します。  
(別売コードVU-3/9、VU-3/19、VU-3/25)

### ACヒューズ(0.5A)

### サービスコンセント

(本機の電源スイッチと連動)  
AC100V最大50W以下の音響製品の接続にご利用ください。

### JC4 AC電源接続器

付属の電源コードでAC電源制御ユニットRIP-2A31またはRIP-2A51のACコンセントのいずれかと接続します。  
(直接AC100Vコンセントに接続されますと、スイッチ機構がありませんのでご注意ください。)

### JC3 DC電源接続コネクタ

DC24V直流電源でも使用できます。ただし、スイッチ機構がありませんのでご注意ください。

### JP13 JP14 ライン出力ジャック

(0dBV 600Ω 平衡 並列2回路)  
別売のユニット間接続用コードVU-1/22または、VU-1/5で電力増幅ユニットRIA-3241、RIA-2121などの **JP1** あるいは **JP2** と接続します。2回路合計で本システム用の電力増幅ユニットが12台まで接続できます。

### JC12 録音出力ジャック

(0dBV 600Ω 不平衡)  
録音されるテープデッキを接続します。レベルを-10dBVに変更できます。(チャイム、ライン4、5と割込放送信号は録音できません。)

### JP11 ライン5入力ジャック

(約-22dBV 10kΩ 不平衡)  
電話ページングやリモートマイクロホン等を接続します。(半固定音量調整器内蔵)

### FM/AMアンテナ入力コネクタ

FM・AM外部アンテナを接続します。  
(P12のラジオチューナーユニットFU-110Rの組込方法を参照)

### JP4 ミキサー入力ジャック

(約-2dBV 600Ω 平衡)  
マイクミキサー等を接続します。  
(半固定音量調整器内蔵)

### JP3 マイク3入力ジャック

(約-72dBV 600Ω 不平衡)

### JP2 マイク2入力ジャック

(約-72dBV 600Ω 不平衡)

### JP1 マイク1入力ジャック

(約-72dBV 600Ω 不平衡)  
前面のマイク1入力ジャックが優先します。

### アース端子

(雑音低減用)

本機に他の音響機器を接続するときなどで雑音低減の効果がある場合に、他方のアース端子に接続したり、接地してください。また静電気対策などのためにも接地することをお勧めします。

### JP5 JP6 ライン1入力ピンジャック

(約-22dBV 50kΩ 不平衡)  
ステレオCDやステレオテープレコーダー等を接続してください。

### JP7 ライン2入力ジャック

(約-22dBV 10kΩ 不平衡)  
テープレコーダーやBGM等を接続します。

### JP8 ライン3入力ジャック

(約-22dBV 10kΩ 不平衡)  
テープレコーダーやBGM等を接続します。  
(半固定音量調整器内蔵)

### JP9 チャイム入力ジャック

(約-32dBV 10kΩ 不平衡)  
ミュージックチャイムMZ-1203等を接続します。  
(半固定音量調整器内蔵)

### JP10 ライン4入力ジャック

(約-22dBV 10kΩ 不平衡)  
電話ページングやリモートマイクロホン等を接続します。(半固定音量調整器内蔵)

## 本機の動作

### 特徴

本機のマイク入力は3回路と、その他の入力(ライン系)は7回路を有し、ユニペックスラックシステム組込用に設計された多機能のミキサーユニットです。本機の電源スイッチで、システムの電源起動を行うほか、多くの機能を持った使いやすいものとなっています。また、別売のFM/AMラジオチューナーユニットFU-110Rを追加してラジオ放送ができます。

## 各種の機能

### ① 平衡形に変更できる入力回路 (平衡入力トランスLT-16Aが必要です)

- マイク1～3
- ライン3 (ただし10k $\Omega$ から600 $\Omega$ に変更になります)
- ライン4、5 (ただし10k $\Omega$ から600 $\Omega$ に変更になります)
- チャイム (ただし10k $\Omega$ から600 $\Omega$ に変更になります)

### ② 半固定音量調整器を有している入力回路

- ミキサー
- ライン3
- ライン4、5
- チャイム

### ③ マイクの入力感度を-72dBVから-62dBVに変更できます。

### ④ チャイム、ライン1、ライン2の信号を入力において減衰することができます。

- 減衰量 ●チャイム 約20dB  
●ライン1 約12dB  
●ライン2 約20dB

### ※ ⑤ チャイム、ライン4、ライン5は各々に対応した制御信号が入力されたときのみ動作します。

注1)3入力まとめて入、切されます。(スピーカースイッチユニットRIS-R101A、RIS-R101、RIS-D101の取扱説明書を参照)  
注2)本ユニットJC2をAC電源制御ユニットに接続し、DC24V制御電源の供給を受けることが必要です。

### ※ ⑥ 割込放送ができます。(そのときは、他の放送はカットされます)

- 入力：マイク1かライン5に限定
- 放送制御：割込制御信号が必要です。(スピーカースイッチユニットRIS-R101A、RIS-R101、RIS-D101の取扱説明書参照)
- 音量調節：別に専用半固定音量調整器内蔵(音質調節はできません)

### ⑦ ライン1～3及びオプションのラジオチューナーユニットは、その他の入力信号(オプションのチャイムを含む)により自動的に音量が減衰されます。

出荷時は、減衰量約26dBに調整されていますが、変更することもできます。

### ⑧ 録音出力のレベルを0dBVから-10dBVに変更することができます。

### ⑨ ライン1入力を-55dBVのレコード入力に変更することができます。

### ⑩ エレクトロチャイムEC-44を組込むことができます。

### ⑪ ラジオチューナーユニットFU-110Rを組込むことができます。



※ ⑫ ミキサー制御基板RK-X1を組み込むことができます。

○ ⑤の関連事項

チャイム、ライン4、ライン5は、各々に対応した制御信号により、個別に入、切されます。

○ ⑦の関連事項

チャイム入力に関して、チャイム動作時にライン1、2、3、オプションのラジオチューナーユニットが⑦の調整に関係なく、最大減衰となります。また、チャイム音終了後、約5秒で元の音量にもどります。

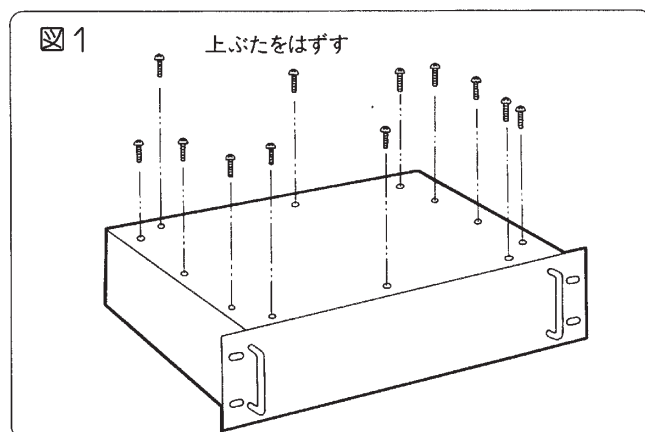
(RK-X1の取扱説明書もご覧ください)

ご注意… 各種接続される機器のレベルをお調べになって、その機器に合った音量にあらかじめ設定してください。

## オプションの取付や各種調整のしかた

### 本機のふたのはずしかた

○上ふたを止めているねじ12本をはずし、上ふたを取りはずしてください。(図1参照)



### 平衡入力トランスLT-16Aの取付けかた

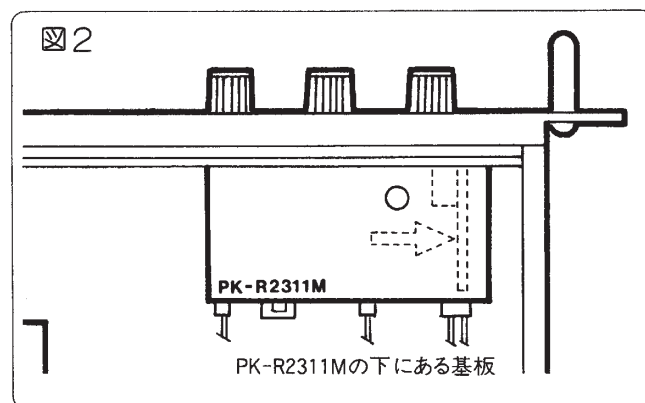
●前面パネルのマイク1入力ジャックにLT-16Aを取付ける場合

①基板PK-R2311MJのJ1とJ2のジャンパー線を取り除いてください。

②図の矢印のように基板PK-R2311MJの平衡トランス取付穴にLT-16Aを差込み裏面よりハンダ付けを行ってください。

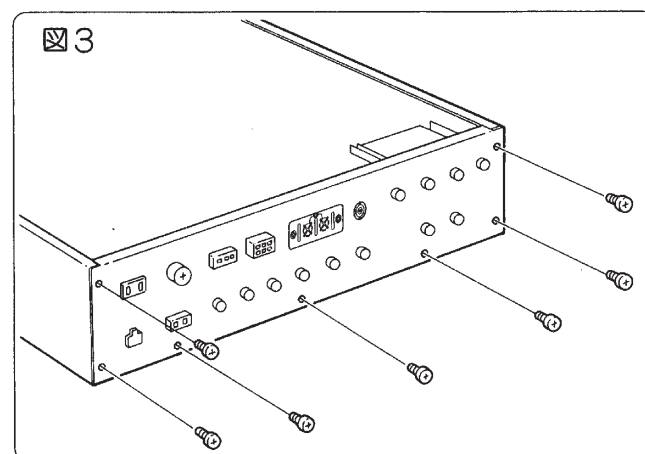
(図2参照)

(取り除いたジャンパー線がトランスや他の金属物等に触れないようご注意ください。)



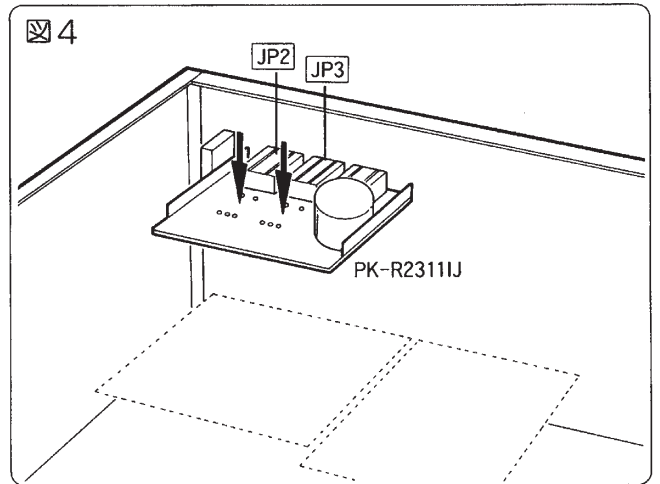
●その他の基板にLT-16Aを取付ける場合

○図のように後面シャーシを7本のねじをはずし、後面シャーシを手前にはずしてください。(図3参照)



JP2 JP3のマイク入力ジャックにLT-16Aを取付ける場合

- ①基板PK-R2311JのそれぞれJ1、J2、J4、J5のジャンパー線を取り除いてください。(取り除いたジャンパー線がトランスや他の金属物等に触れないようにご注意ください。)
- ②図4の矢印の方向に基板PK-R2311Jの平衡トランス取付穴にLT-16Aを差し込み裏面よりハンダ付けを行ってください。



JP8ライン3入力ジャック、\*JP9チャイム入力ジャック、\*JP10ライン4入力ジャック、\*JP11ライン5入力ジャックにLT-16Aを取付ける場合。

- ①PK-R2311LはJ3とJ4のジャンパー線を、PK-R2311CMのJP9はJ1、J2、JP10はJ4、J5、JP11はJ7、J8のそれぞれのジャンパー線を取り除いてください。(取り除いたジャンパー線はトランスや他の金属物等に触れないようにご注意ください。)
- ②図5の矢印の方向に基板PK-R2311Lと基板PK-R2311CMの平衡トランス取付穴にLT-16Aを差し込み、裏面よりハンダ付けを行ってください。
- ③基板PK-R2311CM、PK-R2311Lのパターン面に図6、7の矢印の箇所をそれぞれハンダでつないでください。

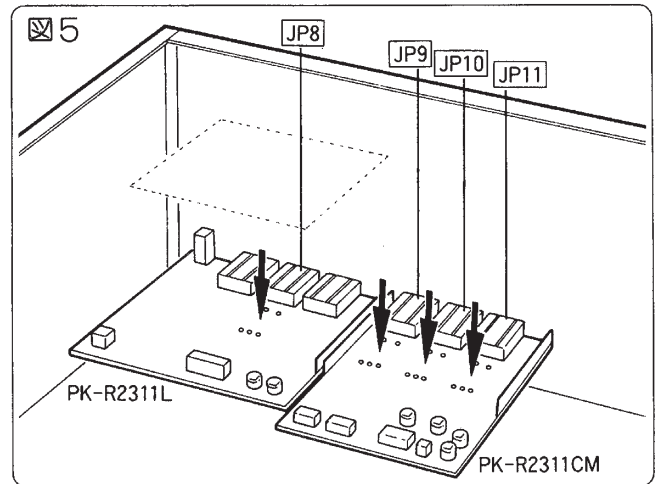
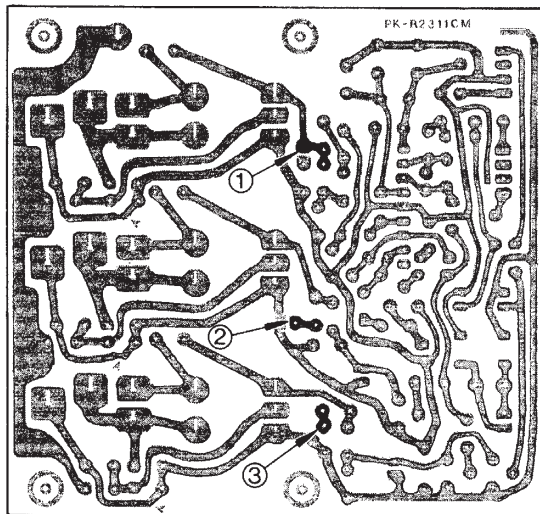
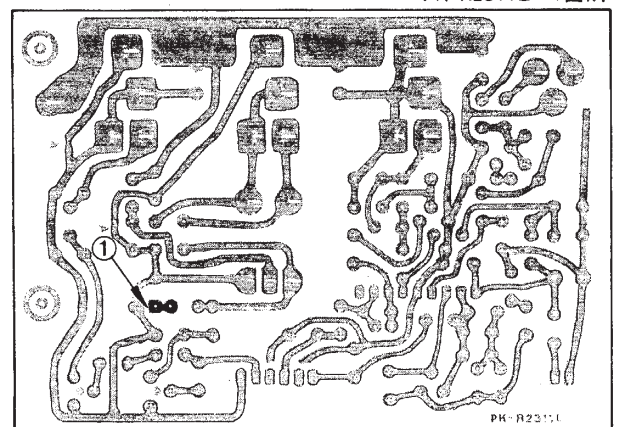


図6 PK-R2311CM 3箇所



- ①チャイム
- ②ライン4
- ③ライン5

図7 PK-R2311L 1箇所



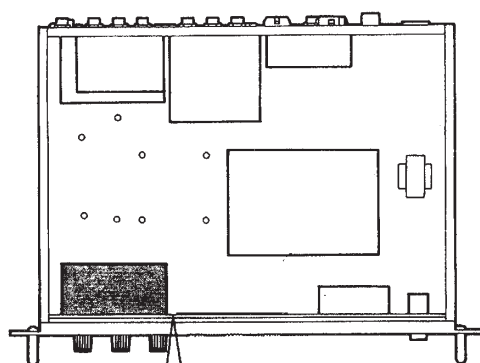
- ①ライン3



## マイク1～3の入力感度の変更のしかた

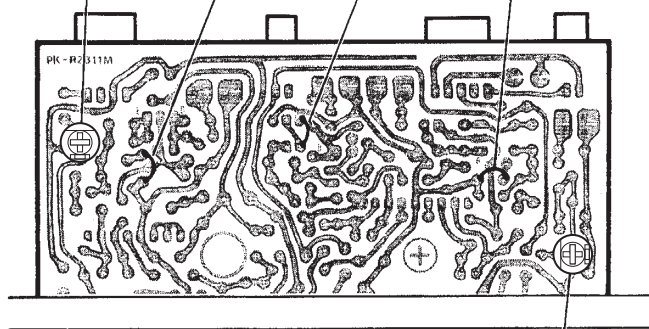
- ご使用になるマイクロホンや設置場所等の関係でマイクの入力感度を下げたいときは図8のようにジャンパー線を切断してください。(約-72dBV→約-62dBV)
- ※割込放送時には、マイク1の通常の音量調整器は使用できませんので図8の半固定音量調整器で調整してください。
- ミキサー入力の音量調整のしかた  
図8の半固定音量調整器で調整してください。(それぞれの半固定音量調整器は出荷時には音量は最大に設定されております。調整は半固定音量調整器を右にまわして音量を下げるように調節してください。)

図8



※割込放送時のマイク1音量調整器

マイク1入力感度 変更ジャンパー線  
マイク2入力感度 変更ジャンパー線  
マイク3入力感度 変更ジャンパー線



ミキサー入力の音量調整器

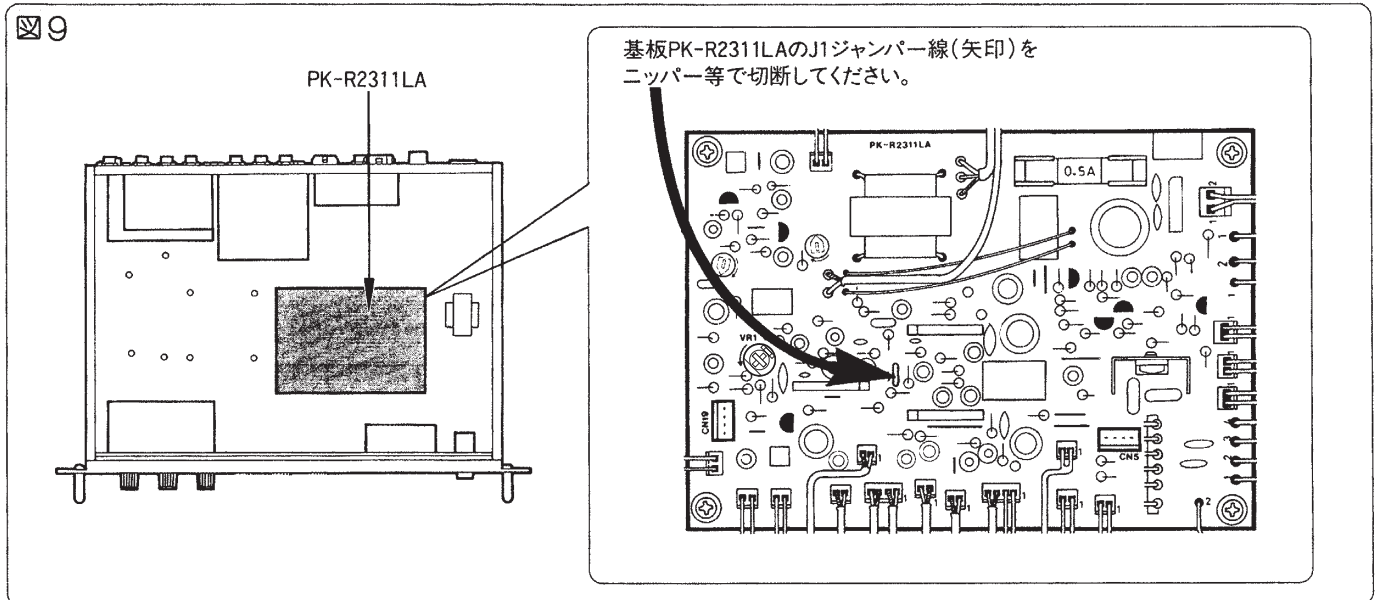
ミキサー入力の音量調整器

前面シャーシ

## 録音出力レベルの変更のしかた

**JP12** 録音出力ジャックは出荷時のレベルは0dBVに設定してありますが、約-10dBVに変更することができます。  
(図9参照)

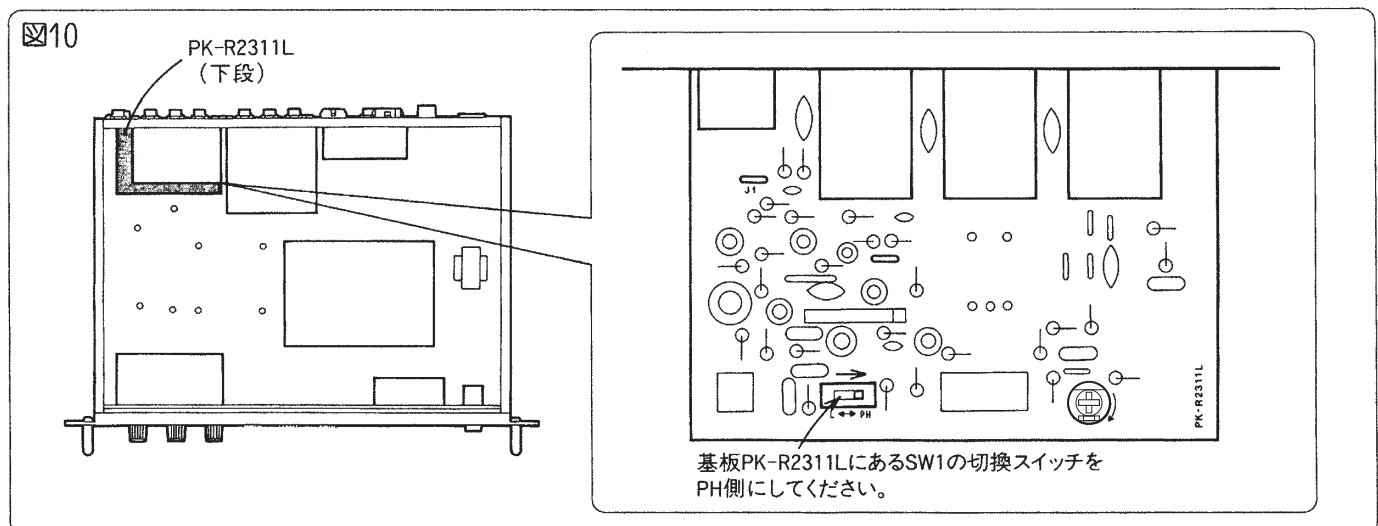
図9



## ライン1入力をレコード入力に変更のしかた

ライン1のピンジャックは出荷時のレベルは約-22dBVに設定されておりますがステレオレコードプレーヤー等を接続される場合は内部スイッチの切換でレベルを約-55dBVに変更することができます。(図10参照)

図10



## 各半固定音量調整のしかた

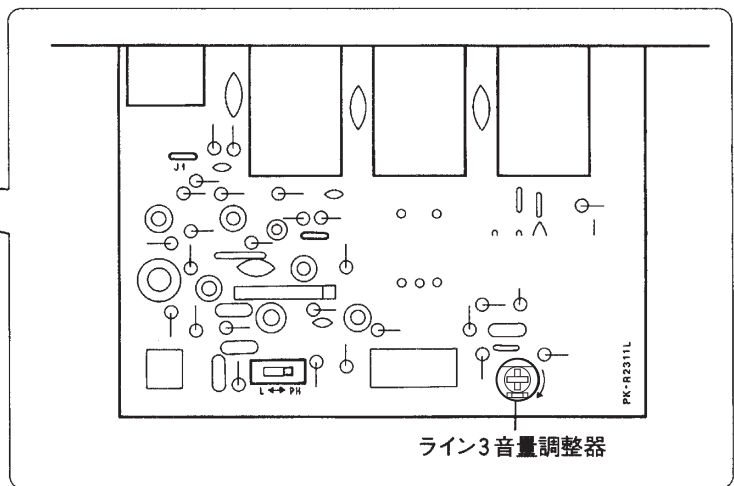
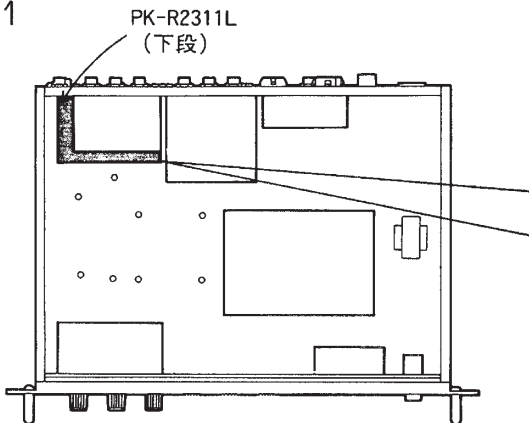
各基板の半固定音量調整器は、基板矢印の方向いっぱい(最大音量)に設定されております。音量を下げる場合は矢印反対方向にまわして調整してください。本機をラックに設置後でも本機を手前に引き出すだけで容易に調整ができます。

(図11、12参照)

(ミキサー入力の半固定音量調整と割込放送時のマイク1の半固定音量調整のしかたは7ページのマイク1～3の入力感度の変更のしかたの基板パターン(図8)の説明をご覧ください。)

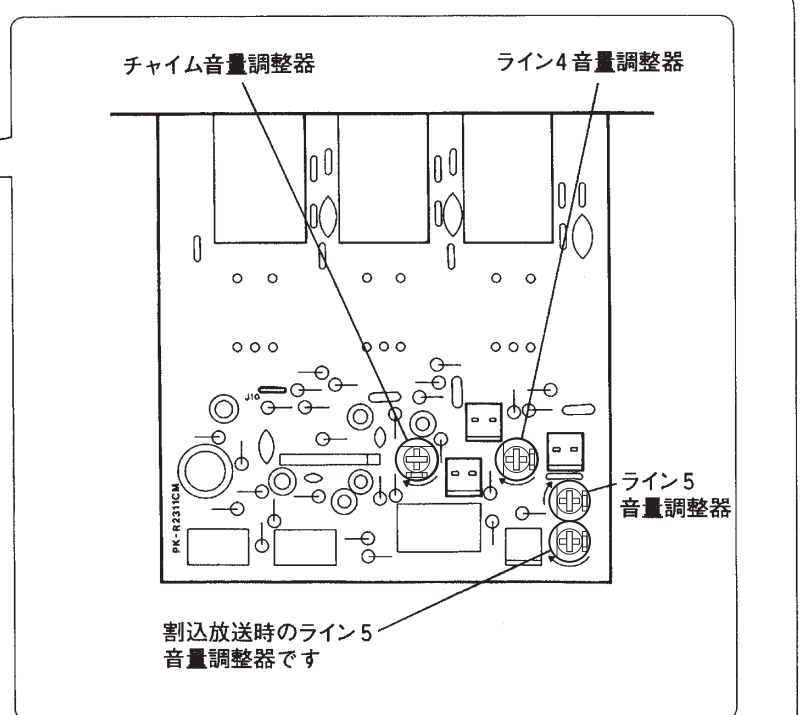
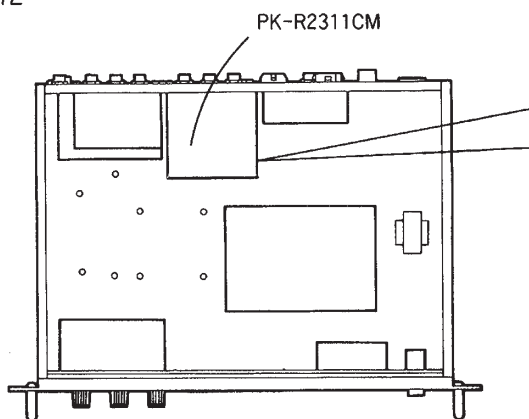
### 基板PK-R2311L

図11



### 基板PK-R2311CM

図12

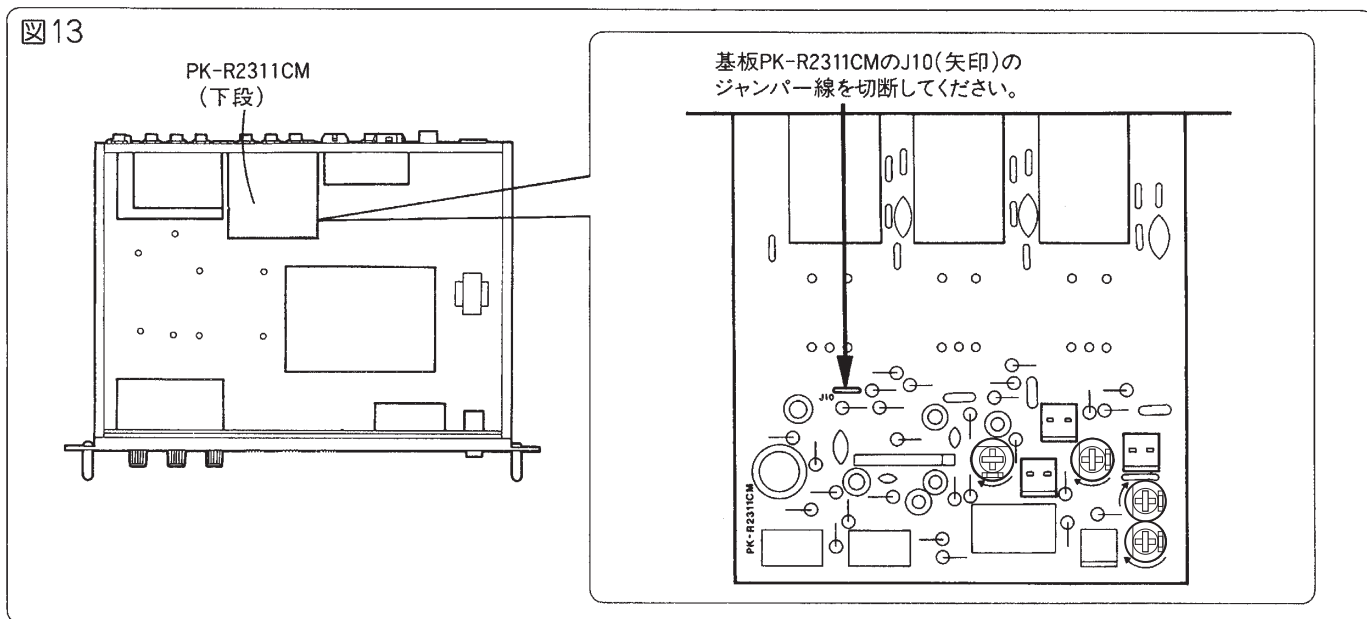


## 減衰回路使用のしかた

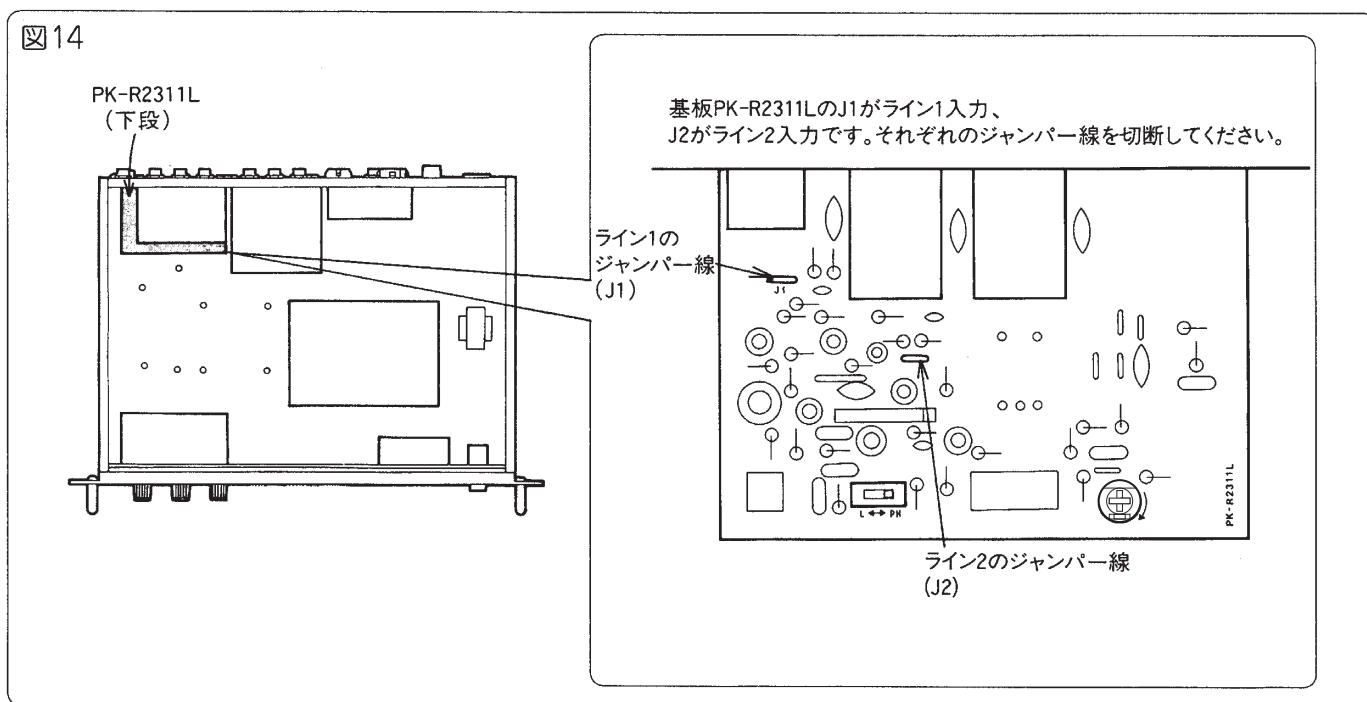
本機のチャイム入力、ライン1入力及びライン2入力には、入力感度を下げるための減衰回路が組込まれています。接続された機器の出力レベルにより入力感度を下げたいときは図13、14のようにジャンパー線を切断してください。ジャンパー線を切断することにより各入力感度は次のようになります。

※チャイム	約-32dBV → 約-12dBV
ライン1	約-22dBV → 約-10dBV
ライン2	約-22dBV → 約-2dBV

### ※チャイム入力の場合



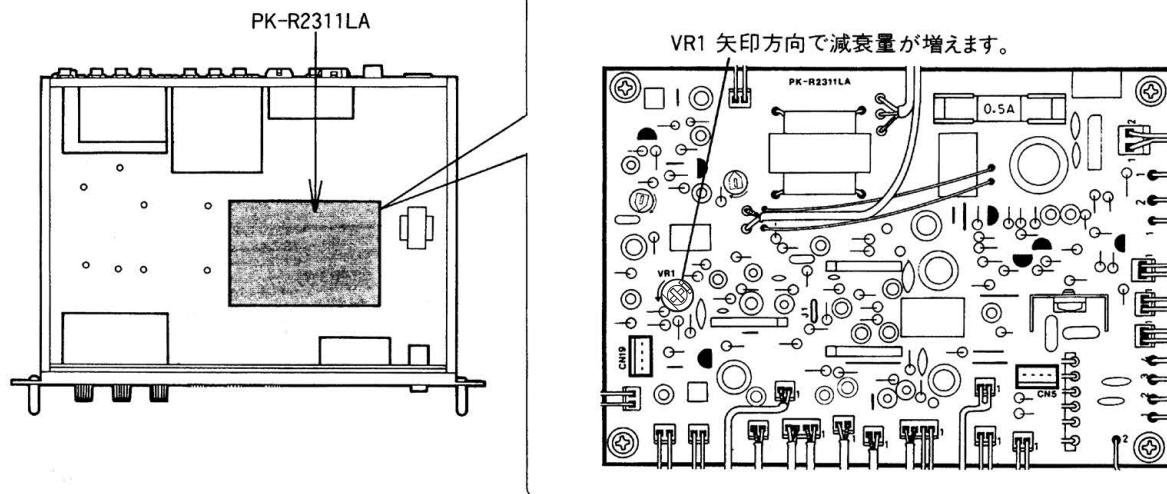
### ライン1及びライン2の場合



## オートフェーダの調整のしかた

ライン1、ライン2、ライン3、オプションのラジオチューナーユニットの入力は、他の信号が入ると自動的に音量が減衰します。出荷時は約26dBに減衰するように調整済ですが、好みの減衰量に調整される場合は基板PK-R2311LAのVR1の半固定音量調整器で調整してください。(図15参照)

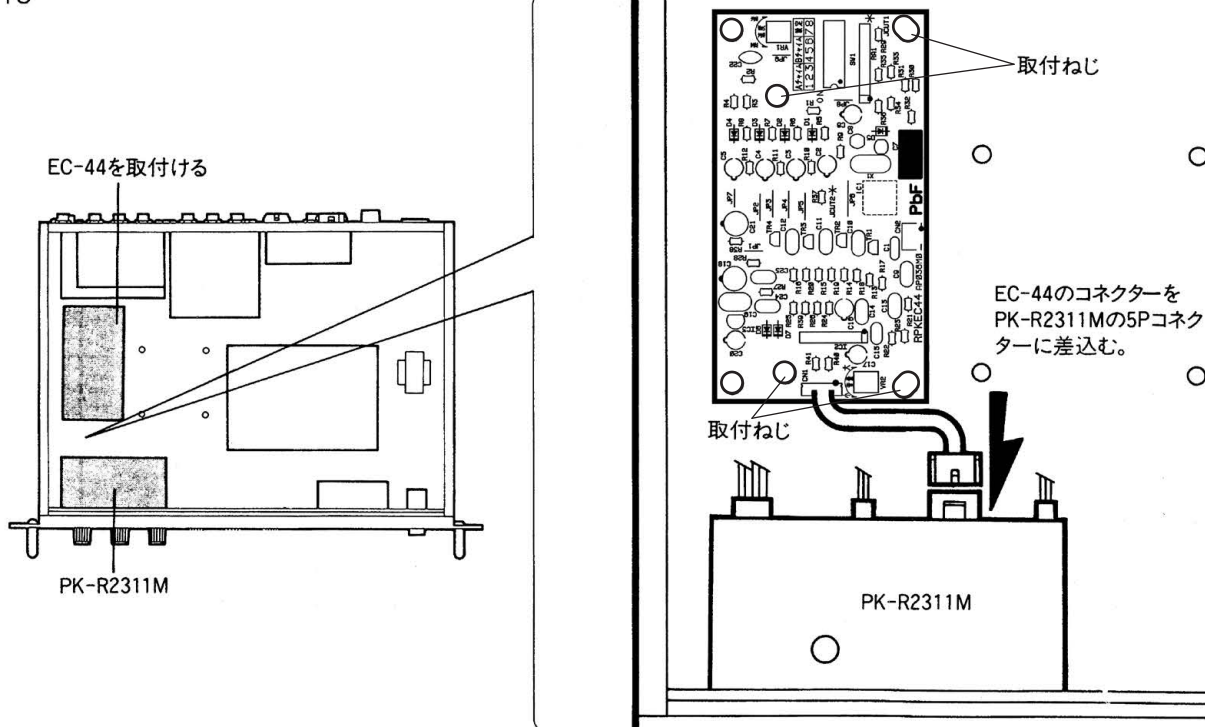
図15



## エレクトロチャイムEC-44の取付けかた

- 図16の位置にEC-44を本機の底シャーシに取り付けてください。ねじは取付済のものをはずして使用してください。
- EC-44のコネクターを基板PK-R2311Mの5Pコネクターに差し込んでください。(図16参照)
- 前面パネルのチャイム部のふたを取り除き、EC-44付属のスイッチボタンを押し込んでください。ボタンの上に付属のチャイム表示シールを貼ってください。

図16





## ラジオチューナーユニットFU-110Rの組込方法

ラジオチューナーユニットの取扱説明書も必ずご覧ください。

本機のユニット挿入口のブラंकパネルをはずしてください。(図17参照)

- ブラंकパネルの裏側にユニット接続用コードの先端(コネクター)を止めています。ブラंकパネルをはずしますと、同時にユニット接続用コードとコネクターが引き出せます。

ユニット接続用コードの先端のコネクターをユニット後面のコネクターにしっかりと差し込み、接続してください。

(図17参照)

接続が完了しましたら、ラジオチューナーユニットをユニット挿入口に差し込み、ブラंकパネルを取付けてあったねじ2本で固定してください。

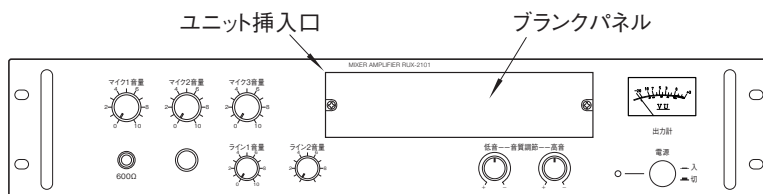
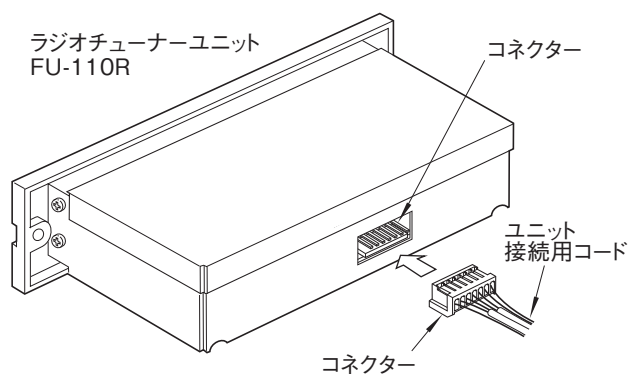
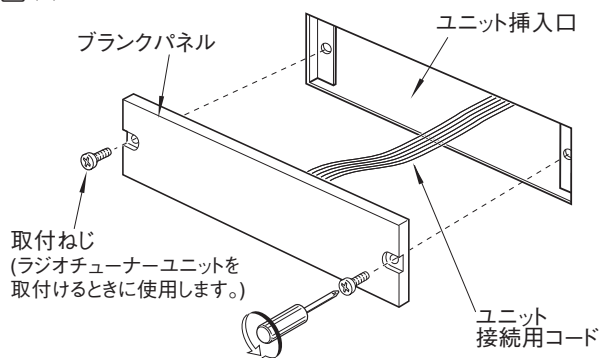


図17



## ラジオ用アンテナの接続

FM/AMの外部アンテナを接続する場合

ミキサーユニットから、外部接続ユニット(端子板)へのラック内配線には、外線接続コードVG-7/34をご利用ください。

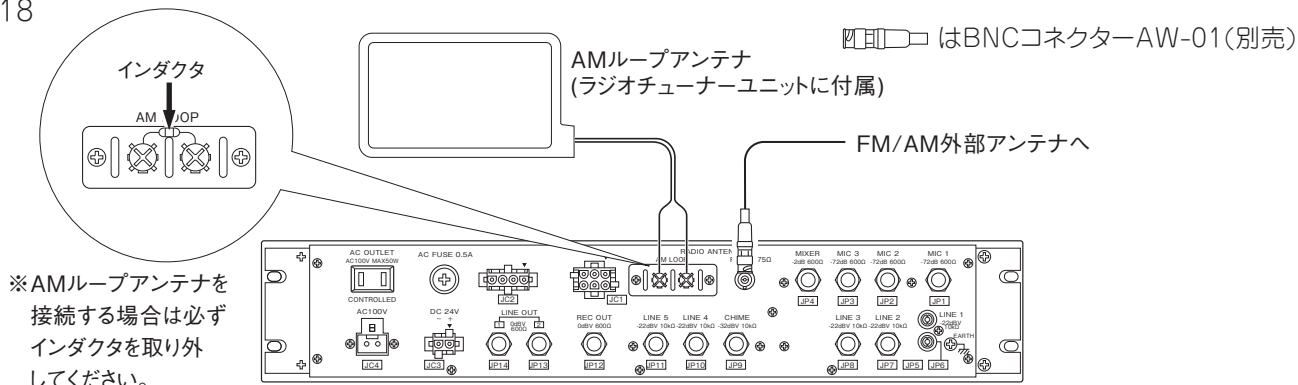
AMループアンテナを接続する場合

ループアンテナ端子(2Pねじ端子)に接続されているインダクタ(図18の○内に矢印で示す部品)を取り外し、ループアンテナを接続します。ループアンテナはラックの外へ出してください。(ラック内では受信できません。)

ご注意

- 1)ループアンテナの接続コードは切断したり延長しないでください。
- 2)ミキサーを前へ引き出すときは、ループアンテナの接続コードを引きちぎらないように配慮してください。

図18



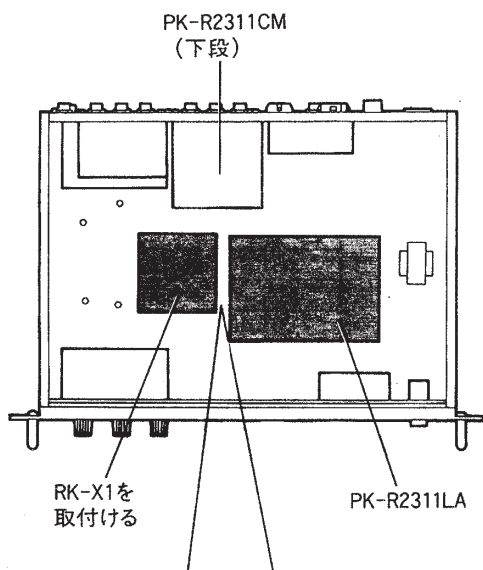
## ミキサー制御基板RK-X1の取付かた

図19のようにRK-X1付属のねじでミキサーユニットに取り付けてください。

RK-X1の2Pコネクタ3個はミキサーユニット基板PK-R2311CMのそれぞれの2Pコネクタに差し込んでください。必ず同じ色のコネクタに合わせてください。

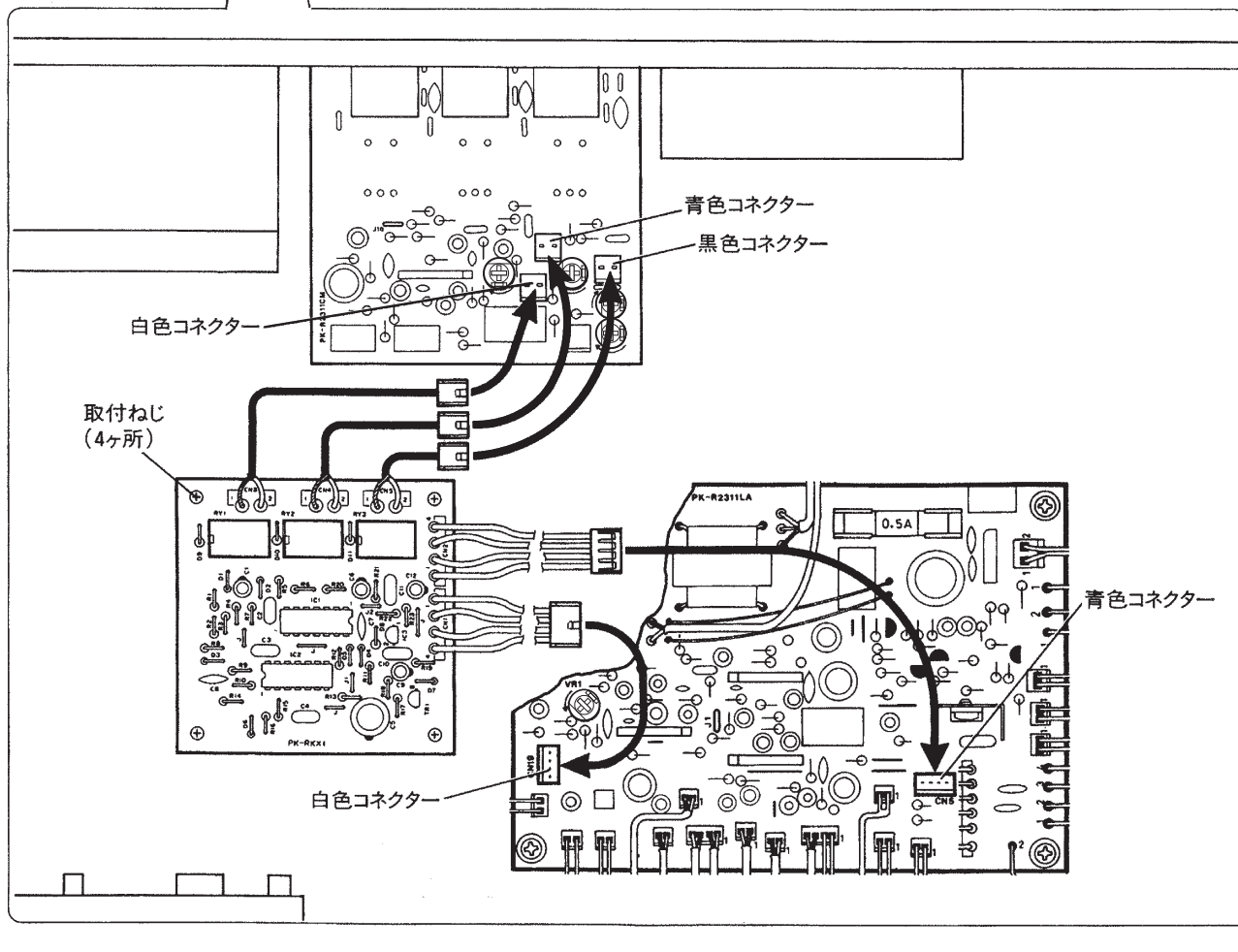
RK-X1の4Pコネクタ2個はミキサーユニット基板PK-R2311LAのそれぞれの4Pコネクタに差し込んでください。必ず同じ色のコネクタに合わせてください。

図19



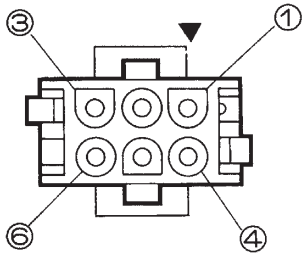
注) RK-X1を取付けるときは必ず図の方向どおりに取付けてください。逆に取付けますと、それぞれのコネクタのコードがとどきません。

●RK-X1の取扱説明書も合せてご覧ください。



## 各コネクターのピン番号と機能

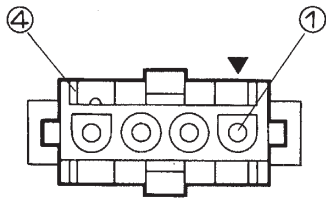
JC1 抜け止め付き圧着コネクタ



JC1

ピン番号	機能
①	接続なし
②	ライン5 制御 (L5)
③	ライン4 制御 (L4)
④	チャイム制御 (CH)
⑤	割込制御 (BI)
⑥	電源表示制御 (POW)

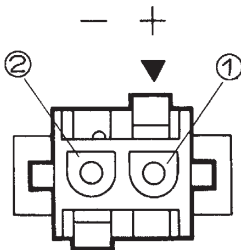
JC2 抜け止め付き圧着コネクタ



JC2

ピン番号	機能
①	電源起動 (RP)
②	制御用電源 +B
③	制御 COM
④	アース

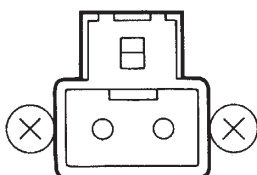
JC3 抜け止め付き圧着コネクタ



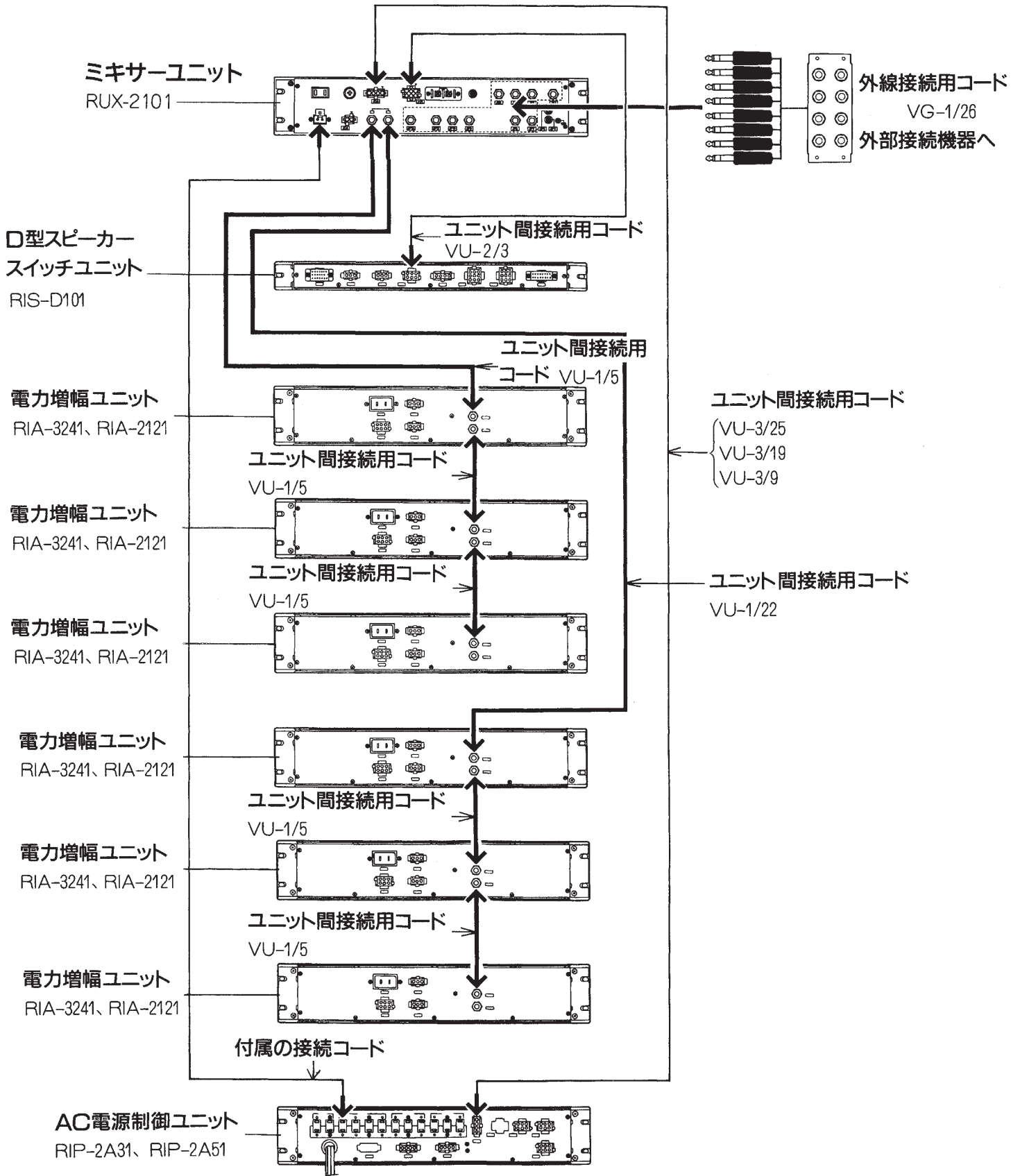
JC3

ピン番号	機能
①	直流電源入力 24V +
②	直流電源入力 -

JC4 AC電源 100V入力

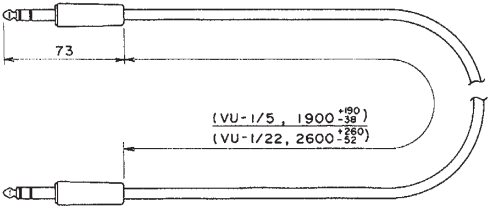
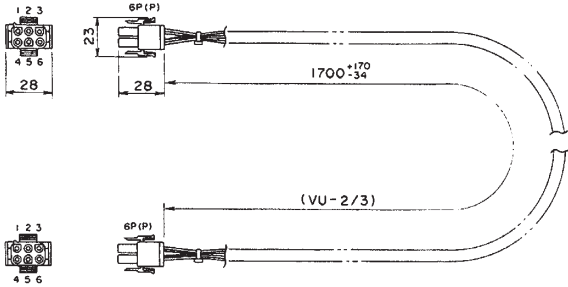
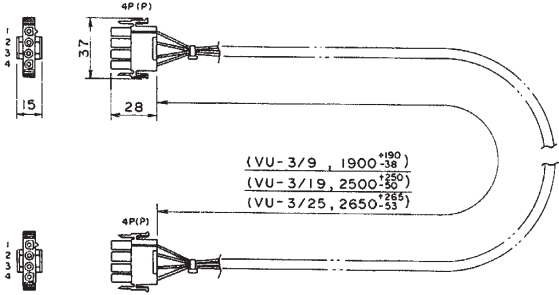
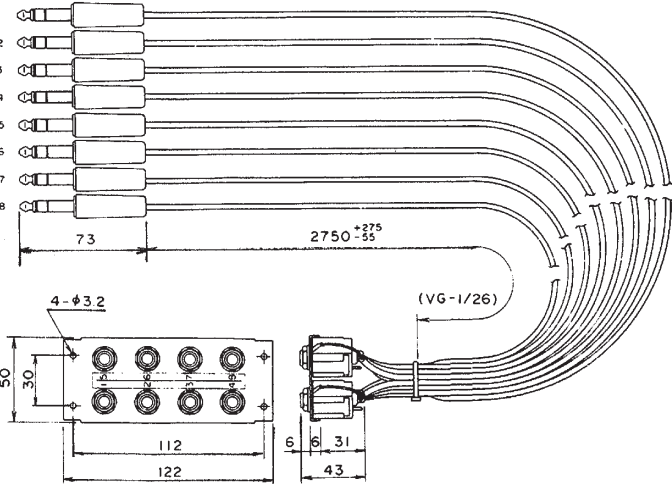
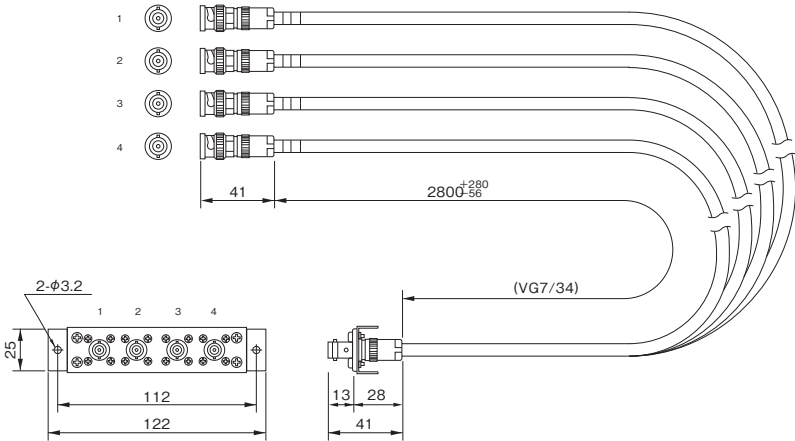


電力増幅ユニット・AC電源制御ユニット・D型スピーカースイッチユニットとの接続図(例)



## 別売接続コードの説明

コードの品番の最後の数字( / 以降の数字)は、接続されるユニット間の最大間隔をユニット数で表わしております  
 例) VU-3/25は25U離してユニットを取り付けられる事をいいます。ただし、配線の方法によりユニット間の間隔が変わりますので目安としてご使用ください。

ユニット間接続用コード	ユニット間接続用コード
<p><b>VU-1/5・VU-1/22</b></p>  <p>(VU-1/5, 1900<sup>+90</sup><sub>-38</sub>)                      (VU-1/22, 2600<sup>+260</sup><sub>-52</sub>)</p>	<p><b>VU-2/3</b></p>  <p>(VU-2/3)</p>
ユニット間接続用コード	外線接続用コード
<p><b>VU-3/9・VU-3/19・VU-3/25</b></p>  <p>(VU-3/9, 1900<sup>+190</sup><sub>-38</sub>)                      (VU-3/19, 2500<sup>+250</sup><sub>-55</sub>)                      (VU-3/25, 2650<sup>+265</sup><sub>-55</sub>)</p>	<p><b>VG-1/26</b></p>  <p>(VG-1/26)</p>
外線接続用コード	
<p><b>VG-7/34</b></p>  <p>(VG7/34)</p>	

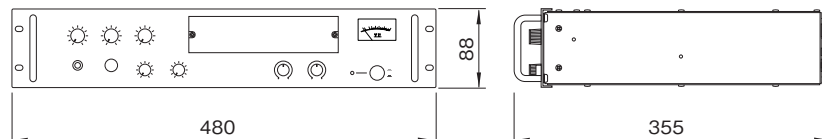


# 定格

使用電源及び消費電力	AC100V 50/60Hz 6VA DC24V (-アース基準) 0.1A (オプションラジオユニット組込時AC10VA、DC0.2A)
出力及びインピーダンス	定格0dBV 最大+10dBV 並列2回路 600Ω 平衡 (2回路合計)
録音出力及び負荷インピーダンス	0dBV 600Ω 不平衡 (-10dBVに変更可) (チャイム、ライン4・5及び割込放送を除く)
ひずみ率	0.5%
周波数特性	50Hz~15kHz 偏差±2dB (定格出力時) (割込放送時を除く) (割込放送時 100Hz~10kHz 偏差±3dB 定格出力時)
音質調節	低音100Hz±10dB (1kHz基準) 調節器付 (チャイム、ライン4・5及び割込放送時のマイク1を除く) 高音10kHz±10dB (1kHz基準) 調節器付
入力感度及びインピーダンス	マイク1~3: 約-72dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付 平衡トランス取付可 ライン1: 約-22dBV 50kΩ 不平衡 音量調節器付 (内部スイッチによりレコードに変更可 約-55dBV50kΩ) ライン2: 約-22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン3: 約-22dBV 10kΩ 不平衡 半固定音量調整器付 平衡トランス(600Ω)取付可 ライン4・5: 約-22dBV 10kΩ 不平衡 半固定音量調整器付 平衡トランス(600Ω)取付可 チャイム: 約-32dBV 10kΩ 不平衡 半固定音量調整器付 平衡トランス(600Ω)取付可 ミキサー: 約 -2dBV 600Ω 平衡 半固定音量調整器付 ユニット部: 約-22dBV 10kΩ 不平衡
信号対雑音比	マイク1~3 55dB、その他の入力 65dB (ライン1のレコード使用時を除く)
制御用ユニット間接続器	スピーカースイッチユニット用 1、電源制御ユニット用 1
動作表示	電源表示灯: (発光ダイオード) 緑 出力表示: 出力計による(VUスケール) (出荷時は1.0V出力にて0VUに調整)
付帯機能	○1電源スイッチにより、ラック組込みの電源制御ユニットの電源起動が可能 (ミキサーユニット単体の電源入切は不可) ○2マイク1入力ジャックは、パネル面と後面の2カ所にあり、パネル面が優先 ○3ライン1、ライン2、ライン3、オプションのラジオチューナーユニットはその他の入力信号 (オプションのチャイムを含む)により、自動的に音量が減衰減衰量約26dB(出荷時調整済) ○4割込制御信号により、マイク1、ライン5のみ割込放送可能となる。 音量は通常の音量調節器に関係なく、別に設定(半固定音量調整器付)このときの音質調節は不可 ○5マイク1~3の入力感度を-62dBVに変更可能 ○6チャイム、ライン1、ライン2の入力において信号を減衰可能 減衰量 チャイム 約20dB/ライン1 約12dB/ライン2 約20dB
アンテナ端子	ラジオ用 ・75Ω不平衡FM/AM兼用混合(BNC) ・AMループ(ねじ端子)
使用温度範囲	-10°C~+50°C(オプションラジオチューナーユニット組込時 0°C~+40°C)
外装	パネル(鋼板)マンセルN4.5 近似色グレー 塗装 ケース(メッキ鋼板)
寸法	幅480mm 高さ88mm 奥行355mm (EIAサイズ2U)
質量	約5.3kg
付属品	M5×9 ねじ 4、M5×10 セムスボルト 4 機器受金具 2、ヒューズ(0.5A) 1、AC電源コード 1、取扱説明書(保証書付) 1
付加機能	○1 FM・AMラジオチューナーユニット FU-110R組込可能 ○2 4音チャイムユニットEC-44組込可能 ○3 ミキサー制御基板RK-X1組込可能
特徴	本機は電力増幅ユニットを最大12台接続することができ、録音レベルの変更も可能です。本機のチャイム、ライン4・5の入力信号は制御信号入力時のみ出力されます。ミキサーの制御基板RK-X1を組込むことにより、本機のチャイム、ライン4、ライン5の入力信号回路においてそれぞれ別々に使用時のみ出力し、使用しないときは遮断します。またチャイム使用時には、ライン1~3のオートフェードのセッティングに無関係で約30dB以上減衰させ、チャイム音終了後、約5秒でオートフェードを解除します。

## 外観寸法図

単位: mm



## サポートのご案内

### ■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

### ■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページ  
もしくはQRコードにアクセス  
してください。  
<http://www.unipex.co.jp>



### ■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

**UNI-PEX 0120-56-5245** （通話料無料）

お客様ご相談センター 受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）  
PHS・携帯電話からのご利用は、  
**072-855-3334**（通話料がかかります）

#### 【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

## ミキサーユニット RUX-2101 保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部)6ヶ月
お客様	お名前 <b>見本</b> 様 ご住所 〒 電話( ) -
販売店	店名・住所 印 電話( ) -

#### 保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。  
(This warranty is valid only in Japan)

#### 無料修理保証の範囲

- ①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
- ②修理の際は必ず保証書の提示があること。
- ③当保証書の所定項目に必要な事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

#### 無料修理保証の免責範囲

（次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。）

- ①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
- ②不当な修理改造による故障、損傷。
- ③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
- ④お買い上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
- ⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
- ⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
- ⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 **日本電音株式会社**

発売元 **ユニペックス株式会社**

〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL.(072)855-3334(代)